



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 平成29年11月27日 第846号「週刊五十嵐レポート」

会社にとって脅威とは

社長の実力を測る「実力テスト」がないため、社長がどのくらいのレベルの社長だかは解らない。また、社長が責任を持って担当するべき役割も解らない場合がある。さらに、業績の何割が社長の実力で決まるかも解らない。

こうしたことから、経営の勉強をしていない多くの社長は、業績のほとんどは従業員で決まると考える。社長を対象に「今年の重点課題は何ですか」と質問すると、製造業ならば、1位に「新商品開発」、そして2位に「従業員教育」が出てくる。毎年必ず「従業員教育」は上位に入ってくる。(それだけ「従業員教育」は重要である)しかし、社長自身の「経営力の強化」、「戦略実力の強化」という課題はない。ゼロである。商工会議所主催のセミナーも社長用は25件に1件ぐらいしかない。

ある社長に、「毎年業績は伸びており、磐石のように思えるが、脅威と思えるものがあるとしたら何か」と訊いてみた。すると、「社長自身の成長」と答えた。「自分の成長が止まると、会社の業績も止まる。自分の成長が会社の成長」。競争相手や外部環境のことは関係ない。すべては己自身になると。

社長が戦略実力の上位3%~5%に入ると、

1. 他社にない良い商品、差別化のある商品、競争力がある商品の確保ができる。2. 営業地域の決め方も効果的になる。3. 新しい顧客を作り出す方法も勝れている。4. 作った顧客を維持する方法も勝れている。こうなると効果性が高い仕事を「全員で実行」することになる。当然業績が良くなる。

まさにこれだ。

経営を学び始めた後継者の話。「戦略と戦術の違いを学んでいるが、今までやってきたことは全部「戦術」。戦術が全てだと思っていた。自分では仕事ができると思っていたが、そうではなかった。戦略を学び、仕組みをつくっていくと、もっと効果性の高い仕事ができるようになってきた。もっと時間を作って学ばなければ」。目の前の戦術が大重要に思ってしまう、重要だが緊急性を感じない「戦略」をおざなりにしがち。やはり戦略は大事。

ちょっと
気になる出来事

11月26日(日)日経新聞「発信 出処進退」は元巨人、代走のスペシャリスト鈴木尚広氏の話。

ドラフト4位でプロに入ったが、「上には上がいた。最初から壁にぶち当たった」。他の選手と圧倒的な差を感じた。5年間は1軍出場はなかった。

4年目のオフシーズンに自分から動き出し、変わるきっかけをつかんだ。年俸の半分ほど投資としてトレーナーと契約。体のケアに始まり、食生活やトレーニング方法の計画、失敗の原因を探るって学び、解決策に結びつける。

「自分にとって何が一番強みで、チームに足りないのは何か」。

チームの貢献を考え、代走という立ち位置を武器として見つけた。

「勝負は準備の中で決まる」。試合7時間前に球場入り、足湯やストレッチなどで入念に心身を整えた。スタートの一瞬の判断を迫られる盗塁は投手、捕手、野手の3つの接点に細分化して球種やクセを研究。

「自分の魅力さえ知って磨いていけば、組織に貢献できる」

人の生き方、企業の生き方に通じる。



一口メモ
知識

未来において何かを起こす責任

明日は必ず来る。そして明日は今日とは違う。そのとき、今日最強の企業といえども、未来に対する働きかけを行っていないければ、苦境に陥る。個性を失い、リーダーシップを失う。残るものといえば、大企業に特有の膨大な間接費だけである。

起こっていることを理解できなければ、未来に対する働きかけはできない。その結果、新しいことを起こすというリスクを避けたために、起こったことに驚かされるというはるか大きなリスクを負うことになる。リスクとは、最大の企業でさえ処理できないものであると同時に、最小の企業でさえ処理できるものである。

マネジメントたる者は、未来において何かを起こす責任を受け入れる。進んでこの責任を引き受けること。企業における最大の経済的課題に関わる責任に意識的に取り組むことこそ、単なる優れた企業から偉大な企業を区別し、サラリーマンから事業家を峻別するものである。

P.F.ドラッカー「チェンジ・リーダーの条件」より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日 午前10時~12時

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週水曜日 午前10時~12時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

